

令和4年度

教育委員会の事務の点検及び評価
に関する報告書

— 令和3年度の実績 —

五戸町教育委員会

ま え が き

五戸町教育委員会では、町の行政運営の基本方針である「第2次五戸町総合振興計画」に沿って、教育に関わる施策を推進しているところです。

この振興計画に基づき、町教育委員会では、「教育は人づくり」という視点に立ち、「五戸の未来を創造する人と文化を育むまち」を目指し、様々な取り組みを進めています。

本報告書は、このよう町教育委員会の取り組みについて、外部の学識経験者などから意見を伺いながら点検及び評価を実施し、その結果を取りまとめたもので、今後の効果的な教育行政の推進と町民への説明責任を果たすことを目的に作成しました。

町民の皆様には、この報告書によりまして本町の教育行政について、ご理解を深めていただきますようお願いいたします。

令和4年10月

五戸町教育委員会

目 次

点検及び評価の実施について	1
対象事業一覧表	2
施策4-1 幼児・学校教育	3
施策4-2 生涯学習	16
施策4-3 スポーツ・レクリエーション	24
施策4-4 地域文化	31
参考資料	36

点検及び評価の実施について

1 趣旨

「地方教育行政の組織及び運用に関する法律」の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされています。

この法律を受け、五戸町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たすことを目的として、教育委員会の事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

2 点検・評価の方法

(1) 自己点検・評価

町教育委員会では、平成27年11月に策定した令和6年度までの「第2次五戸町総合振興計画」に沿って、教育に関わる施策を推進しております。その施策を推進するための主な事業について点検し、教育委員会自ら評価し、課題等を洗い出しました。

(2) 点検・評価の対象

教育委員会の事務事業を総合振興計画の施策ごとに区分し、その施策を推進するための事業を対象としました。

(3) 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、学識経験者を「点検・評価助言委員」として委嘱し、点検・評価の実施方法及び内容について意見をいただき、これを参考に点検・評価の実施と報告書の作成を行いました。

3 報告書の構成

(1) 全体構成

報告書は、振興計画により4つに分類しそれぞれに施策を立て、各施策に対する取り組む事業ごとに記載しています。

(2) 取組事業の点検

施策を推進するための具体的な取組状況について、主な事業を取り上げ、その事業が適切に実施されているかどうか、その事業の概要・計画・実績を点検結果として記載しています。

(3) 取組事業の評価（点検を踏まえた評価）

各取組事業について、各取組状況の点検結果及び実績を踏まえ、その成果と課題を評価しています。

(4) 施策の総括的評価

各施策について、各取組事業の評価結果を踏まえ、総括的に評価しています。

(5) 点検・評価助言委員の意見

上記について、点検・評価助言委員からの意見を載せています。

点検・評価対象事業一覧

五戸町総合振興計画			主 な 事 業				
第4章 五戸の未来を創造する人と文化を育むまち (教育・文化分野)	施策4・1 幼児・学校教育	1	幼児教育の充実	1	幼児教育相談・就学相談事業		
		2	学校教育の充実	2	学校施設維持管理事業		
				3	特別支援教育支援員配置事業		
				4	語学指導外国青年招致事業		
				5	奨学資金貸付事業		
				6	コミュニティバス通学対応便事業		
				7	G I G Aスクール構想推進事業		
				8	海外研修支援事業		
				9	教育支援委員会事業		
				3	道徳教育の充実	-	(各学校実施)
		4	食育の充実	10	学校給食地場産物活用推進事業		
		5	家庭・地域と連携した学校づくり	11	学校評議員事業		
				12	学校支援地域本部事業		
				13	通学合宿事業		
	6	放課後の居場所づくり・青少年育成運動の推進	14	放課後子ども教室推進事業			
	7	子どもの安全確保	-	(各学校実施)			
	施策4・2 生涯学習	1	社会教育関連施設の充実	-	(各施設実施)		
				2	図書館の利用促進	15	移動図書館事業
				3	生涯学習プログラムの整備と提供	16	町民大学講座事業
						17	公民館講座事業
						18	公民館情報紙発行事業
						19	文化賞・スポーツ賞等事業
						20	町民文化講演会事業
				21	町文化協会支援事業		
				4	指導者の育成と団体等の活動支援	-	(各種事業実施)
				5	若い世代が参加しやすい社会教育の実施	22	成人式事業
	6	五戸町を深く知る取り組みの推進	-	(各種事業実施)			
	7	学習成果の活用	23	ボランティア活動支援事業			
	施策4・3 スポーツ・レクリエーション	1	多様なスポーツ活動の普及促進	24	スポーツ推進委員事業		
				25	生涯スポーツ振興事業等委託事業		
				26	スポーツクラブ育成事業		
				27	スポーツ大会出場祝金事業		
				28	町民運動会事業		
				2	指導者の育成・確保	-	(各種事業実施)
3				スポーツを通じた交流の促進	-	(各種事業実施)	
4				スポーツ環境の整備	29	スポーツ施設の管理事業	
施策4・4 地域文化の振興	1	保存団体、指導者の育成	30	文化まつり事業			
			2	文化財の保存活動の推進	31	町文化財管理事業	
					32	伝統芸能継承活動事業	
			3	文化財の活用	33	県重宝「旧圓子家住宅」管理事業	
					34	ごのへ郷土館管理事業	

〈五戸町総合振興計画〉

施策4-1 幼児・学校教育

- 児童・生徒が一人ひとりの個性と能力を伸ばし、生きる力と豊かな人間性の形成につながるよう、幼児教育や学校教育の教育環境の充実を図ります。
- 安全で安心な子どもの居場所づくりに向けて、みんなで子どもを守り育てる社会環境づくりを進めます。

【4-1-1 幼児教育の充実】

- 1 幼児教育相談・就学相談事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 4

【4-1-2 学校教育の充実】

- 2 学校施設維持管理事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 5
- 3 特別支援教育支援員配置事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 6
- 4 語学指導外国青年招致事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 6
- 5 奨学資金貸付事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 7
- 6 コミュニティバス通学対応便事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 7
- 7 GIGAスクール構想推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 8
- 8 海外研修支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 8
- 9 教育支援委員会事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 9

【4-1-3 道徳教育の充実】

※各学校に委ね実施

【4-1-4 食育の充実】

- 10 学校給食地場産物活用推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 10

【4-1-5 家庭・地域と連携した学校づくり】

- 11 学校評議員事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 11
- 12 学校支援地域本部事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 11
- 13 通学合宿事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 12

【4-1-6 放課後の居場所づくり・青少年育成運動の推進】

- 14 放課後子ども教室推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・P 13

【4-1-7 子どもの安全確保】

※各学校に委ね実施

- 施策4-1 総括的評価・点検・評価委員の意見・・・・・・・・P 14

4-1-1 幼児教育の充実

1 幼児教育相談・就学相談事業

点検	概要	<p>幼児一人一人の望ましい発達を促し、生きる力の基礎を培うことを目的とし、必要に応じて、医療・保健・福祉等機関との連携の下に、専門的な教育相談・就学相談を受けられる体制を確立する。</p>	
	計画	<p>教育相談・就学相談については随時対応し、そのケースに応じて専門機関との連携を図り、本人・保護者に十分な情報を提供する。</p>	<p>実績</p> <p>幼児就学相談13件（教育支援委員会による調査・判定を含む）</p>
評価	成果	<p>町内には、教育委員会管轄の幼稚園（旧制度）等施設は無く、他市町村の幼稚園（旧制度）等通園幼児もないため、幼児教育の充実にあっては、福祉機関と情報を共有しながら進める必要がある。</p> <p>教育相談・就学相談については、幼児期からの早期の対応が重要であると考えており、主に教育支援委員会との連携により、円滑な就学につながっている。</p>	
	課題等	<p>発達障害等の疑いのある幼児は増加傾向にあり、その対応や就学先の判断等にあっては、確かな専門的知識が必要となる。専門機関との連携を密にするとともに、対応できる人材の育成を図る必要がある。</p>	

4-1-2 学校教育の充実

2 学校施設維持管理事業

	概要	各学校からの要望により学校施設の改修及び修繕を行い、児童生徒が安全に教育を受けられる安全で快適な環境を整える。	
	計画	前年度に実施した学校訪問により判明した修繕箇所や、緊急に必要となる修繕料を予算措置する。	
点検 実績		<p>小学校 【修繕】（5万円以上） 切谷内小学校 ・体育館放送設備修繕 ・駐車場外灯修繕 ・給食配膳棚・流し台板金補修 上市川小学校 ・受水槽修繕 ・体育館高天井ランプ修繕 倉石小学校 ・体育館外壁修繕 全体 ・ボイラー設備修繕 ・防火設備修繕</p> <p>【工事】 五戸小学校 ・遊具撤去工事 切谷内小学校 ・放送設備更新工事 ・切谷内小学校体育館前外灯設置工事 上市川小学校 ・屋内消火栓地下水槽タンク内ポンプ交換工事 ・非常放送設備更新工事 倉石小学校 ・特別教室床面張替工事 ・遠赤外線放射暖房機改修工事 ・拡声設備更新工事</p>	<p>中学校 【修繕】（5万円以上） 五戸中学校 ・外灯修繕 川内中学校 ・体育館ステージ照明器具修繕 倉石中学校 ・除雪機修繕 ・体育館床修繕 全体 ・ボイラー設備修繕</p> <p>【工事】 川内中学校 ・校舎側ボイラー室陸屋根防水修繕工事 倉石中学校 ・放送室カーペット張替工事 ・体育館照明器具交換工事</p>
	評価	成果	前年の10月頃に教育委員による学校訪問を行い、各学校の要望を把握することで、修繕計画をたて、順次修繕を実施した。
	課題等	五戸小学校以外の校舎の老朽化が進んでおり、今後は大規模改修や学校の統廃合、学校の改築等を検討しなければならない時期になってきている。	

3 特別支援教育支援員配置事業			
点検	概要	様々な障害を持つ児童生徒に対して、学校生活上の介助や学習活動の支援などを行う特別支援教育支援員を必要な学校に配置し、児童生徒の教育の充実を図る。	
	計画	小学校4校、中学校3校、合わせて21人の支援員を配置する。	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・五戸小学校7人 (内1人は生活支援) ・切谷内小学校2人 ・上市川小学校2人 ・倉石小学校2人 ・五戸中学校3人 ・川内中学校3人 ・倉石中学校2人 計21人の支援員を配置した。
評価	成果	特別支援教育支援員を必要とする学校に配置することにより、教員の負担を軽減し円滑な学級運営の一助となっている。児童生徒の発達の段階や障害の状況に対応した支援を行い、障害による困難を克服するための教育を行うことができた。なお、令和2年度からは五戸小学校に肢体不自由の児童が入学したため、生活支援を主とした生活支援員を1名増員している。	
	課題等	発達障害等のある児童生徒が増加傾向にあるなか、概ね人材確保できているものの、欠員が出た場合の補充や新たな支援員増員の要望が出た場合の対応が難しい現状である。会計年度任用職員制度となったことにより支援員の雇用事務を総務課と連携し円滑に行っていく必要がある。	

4 語学指導外国青年招致事業			
点検	概要	国の語学指導外国青年招致事業（JETプログラム）を活用して、語学指導助手（ALT）となる外国青年を招致し、小・中学校で英語授業の補助をしてもらうことで英語教育の充実を図る。また、国際理解教育の補助をすることで諸外国との相互理解を増進する。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・人数3人 ・配置校7校 ・学校教育以外での英語指導の実施（ボランティア） 	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・人数2人 ・配置校7校（全小中学校） ・町内小中学校での授業のほか、町内幼稚園・保育園へ訪問し、ふれあいを通して外国の文化や言葉に対する子どもたちの興味関心を広めた。
評価	成果	外国青年によるALTの配置により、小中学生が生の英語に触れることで英語教育の充実を図ることができた。また、ALTが公民館講座の英語講師として講座を行い、外国の文化や英語に間近に触れることができ町民との交流も図られた。さらに、幼稚園、保育園訪問により、様々な文化や言葉に興味感心を広めることが出来た。	
	課題等	各小中学校と連携を密にし一層のALTの効果的な活用に努力したい。また、住環境について、町指定のアパート以外にも住居の選択肢を増やしたり、町所有物件の活用による双方の住宅費の抑制等の改善が必要である。	

5 奨学資金貸付事業			
点検	概要	五戸町出身の学生及び生徒で経済的理由により就学が困難な者に対して、学資を無利子で貸与して人材の育成を図る。償還期間は、1年据置後から貸与期間の2倍の期間以内とする。	
	計画	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新規貸与者数 高校生 10人 大学生等 15人 ・償還金償還率（現年度分） 95%
評価	成果	経済的理由により就学が困難な者9名に対して新たに貸付を行い、全45名へ奨学資金の貸付けによる支援を実施し、人材育成を図ることができた。	
	課題等	現年度分の償還率については、昨年度の97.3%より上昇している。全体の滞納額は過年度滞納者の未納額が減少した。（△345,000円）未納者と連絡を密にとりながら、未納者の経済状況などの把握をして返済に向けた取組みを継続的に行い、未納額の減少に努める必要がある。	

6 コミュニティバス通学対応便事業			
点検	概要	学校統合などにより、遠方から通学する児童生徒の通学手段として、学校と該当地区の間に通学のためのスクールバスを業者委託により運行する。	
	計画	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス運行学校 五戸小学校、倉石小学校、 五戸中学校、倉石中学校
評価	成果	スクールバスを計画のとおり運行したことにより、遠隔地の児童生徒が円滑に通学することができた。	
	課題等	利用予定にあるが実際生徒が全く乗らない場合等の無駄な部分を、少しでも無くするために、学校側にもバスの費用等を知ってもらう必要がある。	

7 GIGAスクール構想推進事業				
点検	概要	児童・生徒に1人1台タブレット端末の配布と高速ネットワークを整備することにより、タブレット端末を授業に活用し、授業の幅を広げることができる。 また、ICT教育を行うことにより、これからの情報化社会に対応出来る人材の育成を行うことが出来る。 (令和2年度に導入、令和3年度より運用)		
	計画	<table border="1"> <tr> <td>GIGAスクール構想を持続的に実現するために下記の経費がかかる。 ・ネットワークやタブレット端末の維持に係る使用料、保証料 ・故障した際の修繕費 ・サポート業務を行う業者への委託料 ・教材の著作権料 ・ネットワーク工事やディスプレイ等補助教材購入の工事費、備品購入費</td> <td>実績</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ関係機器保証料 ・通信料 ・GIGAスクールサポート業務委託料 ・授業支援ソフトライセンス使用料 ・ドメイン使用料 ・タブレット端末購入費 ・授業目的公衆送信補償金（教材の著作権料） </td> </tr> </table>	GIGAスクール構想を持続的に実現するために下記の経費がかかる。 ・ネットワークやタブレット端末の維持に係る使用料、保証料 ・故障した際の修繕費 ・サポート業務を行う業者への委託料 ・教材の著作権料 ・ネットワーク工事やディスプレイ等補助教材購入の工事費、備品購入費	実績
GIGAスクール構想を持続的に実現するために下記の経費がかかる。 ・ネットワークやタブレット端末の維持に係る使用料、保証料 ・故障した際の修繕費 ・サポート業務を行う業者への委託料 ・教材の著作権料 ・ネットワーク工事やディスプレイ等補助教材購入の工事費、備品購入費	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ関係機器保証料 ・通信料 ・GIGAスクールサポート業務委託料 ・授業支援ソフトライセンス使用料 ・ドメイン使用料 ・タブレット端末購入費 ・授業目的公衆送信補償金（教材の著作権料） 		
評価	成果	各授業において、ドリルやテストを児童・生徒用端末に送信し、回答を返信してもらうことにより、一斉に答案を回収、評価をできるようになった。また、動画を授業に取り入れられるようになったり、体育等の授業において、内臓のカメラで自分の動きを撮影し、練習に活かせるようになった。		
	課題等	タブレット端末の活用の度合は、担任または各教科の先生の理解度よるところが大きいと、各学校間で差ができることがある。		

8 海外研修支援事業				
点検	概要	海外の学校等での研修を希望する高校生の負担軽減を図るとともに、幅広い視野や優れた国際感覚を持つ次世代を担う才能あふれる人材を育成する。		
	計画	<table border="1"> <tr> <td> ◎募集人員等 ・長期留学2名、短期留学3名 ・町内に住所を有し、高等学校又は高等専門学校在学者 ・広報による周知 ・海外研修事業に要する経費の一部を補助金として交付する。 ◎補助金額 ※長期 経費の1/3又は40万円のいずれか少ない額 ※短期 経費の1/2又は25万円のいずれか少ない額 </td> <td>実績</td> <td> 長期留学 1名 スウェーデン 令和3年8月12日～令和4年6月17日予定。 (補助金額 400,000円) 短期留学 0名 </td> </tr> </table>	◎募集人員等 ・長期留学2名、短期留学3名 ・町内に住所を有し、高等学校又は高等専門学校在学者 ・広報による周知 ・海外研修事業に要する経費の一部を補助金として交付する。 ◎補助金額 ※長期 経費の1/3又は40万円のいずれか少ない額 ※短期 経費の1/2又は25万円のいずれか少ない額	実績
◎募集人員等 ・長期留学2名、短期留学3名 ・町内に住所を有し、高等学校又は高等専門学校在学者 ・広報による周知 ・海外研修事業に要する経費の一部を補助金として交付する。 ◎補助金額 ※長期 経費の1/3又は40万円のいずれか少ない額 ※短期 経費の1/2又は25万円のいずれか少ない額	実績	長期留学 1名 スウェーデン 令和3年8月12日～令和4年6月17日予定。 (補助金額 400,000円) 短期留学 0名		
評価	成果	将来を視野に入れ、自信が学びたいことを明確にし、現在も留学を行っている。		
	課題等	本事業を広報誌等で周知しているが、応募が少ないため周知方法を検討する。		

9 教育支援委員会事業

点検	概要	<p>早期からの教育相談・支援や就学先決定時のみならずその後の一貫した支援についても助言を行うということを目的に、主に以下の8つの機能を担っている。(五戸町・新郷村共同設置)</p> <p>①障害のある子どもの情報を継続的に把握する。 ②就学移行期においては、教育委員会と連携し、本人・保護者に対する情報提供を行う。 ③教育的ニーズと必要な支援について整理し、個別の教育支援計画の作成について助言を行う。 ④教育委員会による就学先決定に際し、事前に総合的な判断のための助言を行う。 ⑤就学先についての教育委員会の決定と保護者の意見が一致しない場合に教育委員会からの要請に基づき第三者的な立場から調整を行う。 ⑥就学先の学校に対して適切な情報提供を行う。 ⑦就学後も必要に応じ「学びの場」の変更等について助言を行う。 ⑧「合理的配慮」について助言を行う。</p>		
	計画	<p>令和3年度 予算額 484,921円 ・委員会…4回・専門部会…7回</p>	実績	<p>令和3年度 決算額 484,913円 ・委員会…4回・専門部会…7回</p>
評価	成果	<p>令和3年度は62件(計3回判定)の判定を行った。就学時、就学後の必要な時期に学びの場を検討し、個別支援が必要と思われる児童生徒の教育支援を行った。</p>		
	課題等	<p>専門部員(特別支援教育担当教員・県立学校教員)の協力により検査を実施しているが、新しい検査方式への移行により、検査を実施できる専門部員が大幅に不足している。講習会等への派遣を行い、検査実施可能な専門部員を継続的に育成する必要がある。</p>		

4-1-4 食育の充実

10 学校給食地場産物活用推進事業

概要	<p>学校給食に地場産物を使用し、「生きた教材」として活用することにより、児童生徒が食材を通じて地域の自然や文化、産業等に理解を深め、地産地消並びに、健全な食生活の実践に向けて食育の推進を図る。</p>	
点検	<p>計画</p> <p>地産地消・食育の観点から、学校給食食材に地場産物を取り入れ、地元の食材や産業についての理解を深めると共に郷土の文化や伝統への関心を高める。</p>	<p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食食材に地場産物（米・ながいも・にんにく・ごぼう・シャモロック・りんごジュース・馬肉・味噌・なんばんみそ等）を取り入れ、月1回、地場産物をたくさん使用した給食を提供した。 ・給食だよりを活用し、地場産物の紹介をすることにより、地元食材使用の周知を図った。
評価	<p>成果</p> <p>地域の農畜産物を学校給食に活用することが、より身近に実感を持って、地域の食文化、産業や自然環境の恵みに対する児童・生徒の理解を深められた。</p>	
課題等	<p>食材調達には、安全・安心な給食を確保する観点から、地元産を含む国内産の食材の使用に努めているが、地場産物の食材は割高となるため使用回数が限られ、外国産食材の使用頻度が高くなる。</p>	

1 1 学校評議員事業

点検	概要	学校運営に関し、保護者や地域住民の意見を反映するとともに、協力を得ながら子どもたちの健やかな成長を担うことができる学校運営を行うため、各学校に5名以内の学校評議員を置き、学校運営に参画してもらう。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校評議員を委嘱 ・各学校評議員会議平均開催回数2回 ・各学校評議員の意見の平均反映数3件 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校に学校から推薦された3～5名の方を学校評議員として委嘱した。 ・各学校評議員会議開催平均回数2回 ・各学校評議員の意見の平均反映数3件
評価	成果	各学校では、評議委員から意見を聴取する会議を1～3回開催し、出された意見についても学校運営に反映しており、地域に開かれた学校を目指す運営が行われている。	
	課題等	令和4年度より学校運営協議会事業に移行し、コミュニティスクール推進強化を図る。	

1 2 学校支援地域本部事業

点検	概要	学校の要望に応じて、教育活動を地域住民のボランティア活動で支援する体制をつくり教育活動の一部を支援することで、教職員・地域住民が子どもたちと向き合う時間を増やし、教育環境の整備や地域の教育力の向上を図る。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の学校2校に学校支援センターを設置する。2校に学校支援コーディネーターを計5人配置する。 ・コーディネーターが、学校とボランティアの調整に当たる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・五戸小学校、倉石小学校の2校に学校支援センターを設置した。2校に計5人の学校支援コーディネーターを配置した。 ・コーディネーターが、学校とボランティアの調整に当たった。 ・図書整備や学校田畑整備など学校の要望に沿って地域住民が、ボランティアで支援を行った。
評価	成果	<p>地域住民のボランティアにより、学校の教育環境の向上と教職員が児童に向き合う時間を増やすことができた。</p> <p>また、教職員や児童と保護者以外の地域住民（ボランティア）が交流する貴重な機会であり、地域住民の親しみや教育に関する理解の促進が得られる場でもある。</p> <p>コーディネーターによるボランティアの調整によって多くの保護者や地域住民が学校と関わりを持つことが出来ていることが最大の成果である。令和4年度も引き続き国県補助事業として行う予定となっている。</p>	
	課題等	継続的に実施している支援内容以外の様々な分野での支援ができるようになるため、コーディネーターの資質向上と、コーディネーターと教育委員会の協働による地域ボランティアのさらなる発掘や地域の理解が必要である。	

13 通学合宿事業		
点検	概要	<p>子ども達の生活する力の育成と地域の教育力の醸成を目的とし、家族と離れて、地域の自治会館等に宿泊しながら集団生活を送り、炊事、掃除等の生活体験をする。</p> <p>地域の大人と一緒に活動をし、地域の方々との交流を深めることで、子どもの自立心や生活する力の向上、協調性や我慢する心を育む。さらには、地域住民で実行委員を組織し、地域の大人が子ども達の生活や体験活動をサポートすることを通して、地域住民同士が交流をし、地域ぐるみで子ども達を育てていこうという機運を高める。</p> <p>町からの直接的な資金は投入されていない。</p>
	計画	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加児童 働くことや協力することの大切さを知ってもらう90% ・保護者 働くことや協力することの大切さを児童に理解させる70% ・実行委員 地域で子どもを育てるきっかけをつくる80% <p>実績</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。</p>
評価	成果	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。</p>
	課題等	<p>児童自身の学びや成長だけでなく、地域住民等が率先して実行委員会を組織し計画の作成や実行委員の募集等を地域に呼びかけられるようになることが事業元来の目的であるが、人口減少や担い手不足により実現は難しい。</p> <p>本事業が地域の人材や団体の育成につながることで、地域住民の手による自発的継続的な事業となり、未実施学区や地域でも実施できるようにすることが今後の課題である。</p>

4-1-6 放課後の居場所づくり・青少年育成運動の推進

1.4 放課後子ども教室推進事業

点検	概要	放課後に学校の空き教室等を活用し、地域の方々の協力を得て、子ども達の安心・安全な活動拠点をつくり、スポーツや文化活動、地域住民との交流を通して、地域が一体となって心豊かでたくましい子ども達を育む環境づくりを目指す。開催日は、平日の放課後から17時頃まで。（曜日や時間は実施校により異なる。）年6回程度、土・日曜日を利用した体験活動を開催する。	
	計画	五戸小学校、倉石小学校、切谷内小学校の計3校で開催 ・定員 計60名 ・開催日数は平日計162日、土曜日等計8日、合計170日 ・放課後子どもプラン運営委員会開催2回	実績
評価	成果	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休校や外部講師の入校制限等が多く、開催日数は目標値を下回ったが、万全の対策を行い、子どものあそび場や居場所の提供を実施した。 本事業は、地域の方々の協力により年齢の異なる子どもたちが一緒に工作、料理、自然学習、農作業、アウトドア体験等の様々な体験活動を行うものであり、普段家庭ではなかなかできない体験ができるということで参加児童の保護者からも好評を得ている。 令和3年度からは新たに切谷内小学校での放課後子ども教室（愛称：きりっこひろば）がスタートした。	
	課題等	事業の持続的な開催と未実施学区での事業実施のためにはスタッフの拡充と各教室の自立が重要である。地域の実情に合わせた放課後子ども教室の実施のためにも、各地区での新規人材の確保について広報手段や謝金単価の増額等も含めて対策をしていかなければならない。	

施策4-1 総括的評価

児童生徒が一人ひとりの個性と能力を伸ばし、生きる力と豊かな人間性の形成につながるよう、幼児教育や学校教育の教育環境の充実が図られているか、及び安全で安心な子どもの居場所づくりに向けて、みんなで子どもを守り育てる社会環境づくりが進められているか、関連する14事業をピックアップし点検した結果、コロナ禍により実施できなかった事業を除き概ね成果を得られているものと評価される。

今後も同事業を引き続き実施していくこととなるが、各事業とも課題等があるため、改善に努めながら実施していく必要がある。

点検・評価助言委員の意見

◆「1 幼児教育相談・就学相談事業」について

・発達障害を持った子供たちに対する適切な対応を保護者が理解することにより、子供たちの自尊感情の低下を防ぐことができ、問題行動の減少につながるといわれている。そのためにも町長部局の保健課と連携による、発達障害に関する専門的な知識を持ったコーディネーターを設置し、適切な就学相談ができるような仕組みが必要と考える。

◆「2 学校施設維持管理事業」について

・学校訪問による修繕箇所の把握による対応が中心のようだが、子供たちの安全で快適な環境を整えると言う視点から見ると、不審者の侵入を防ぐための設備の設置等は早急に行うべきと考える(防犯カメラやオートロックの玄関等)。

・児童生徒数の急激な減少、校舎の老朽化が進んでおり、早急に学校の統廃合や大規模改修、改築等の検討が必要と思う。

◆「3 特別支援教育支援員配置事業」について

・支援員の有効活用のために、各学校での活用の実態の把握のために支援員から勤務状況の聞き取りや意の聞き取りを行い、支援員の有効活用できるような手立てを進める必要があると思う。

・教員の負担軽減、円滑な学校運営に大きく寄与していると考え。今後増々、支援員の適切な人材確保が難しくなると予想されるので、対策が必要である。多様な発達障害等への対応について、専門的知識習得のための定期的な研修が必要と思う。

◆「4 語学指導外国青年招致事業」について

・小学校の英語活動から英語科に移行したことも踏まえ、ALT と小中の英語の教科担当者による小中の連携を意識した英語の授業づくりが必要になっていると思う。そのために、町が主導して情報共有できる場が必要と考える。また、五戸町はJETプログラムによるALTの採用のようだが、採用された方はALT経験が始めてという外国人が多いこともあり、他町村のようにJETプログラム以外からの人材の募集も検討してみてもどうか。

◆「5 奨学資金貸付事業」について

・他町村では、奨学資金貸付制度に対し、町に戻ってきたら償還を免除することや金額を下げるなど検討してみてもどうか。

◆「6 コミュニティバス通学対応便事業」について

・各学校のその日の動きに合わせたバスの時間の弾力化など、学校側の利用しやすい時間の設定など、学校の担当者と打ち合わせする機会を大幅に増やしてみてもどうか。

- ◆「7GIGAスクール構想推進事業」について
 - ・トラブル対応や利用の上で生じてくる要望に対応できる体制が機材の有効活用につながると思う。
 - ・タブレット活用向上のために、各教員のリテラシー研修が必要と思う。
- ◆「9教育支援委員会事業」について
 - ・他町村との連携を踏まえた郡レベル(教育振興会が中心となって)で共同歩調を行うなどして、専門員を育成していくなどの取組が必要と思う。特別支援担当教諭が現在でも検査しているのであれば限界だと思う。
 - ・新しい検査方式移行に対応して、専門員を特別支援教育担当教員や県立学校教員に頼らない、町又は地区単独での人材確保が必要と考える。
- ◆「10学校給食地場産物活用推進事業」について
 - ・栄養士(栄養教諭)は、他町村でも経験もあり、郡内の他町村の取組など情報共有できる場をもってよりよい手立てを考えてみてはどうか。
 - ・地産地消・食育の観点から給食に地場産物を取り入れることは大変良いことだと思う。
- ◆「11学校評議員事業」について
 - ・コミュニティスクールの実施についての取組に期待する。
 - ・学校運営協議会事業に移行し、コミュニティスクール推進強化を図ることなので、これまで以上に透明性の高い学校運営が期待される。
- ◆「12学校支援地域本部事業」
 - ・学校支援コーディネーターの配置を川内地区に配置し、学校単位に任せるのではなく、地教委がまとめ役として連絡調整・事業、及び周知を進めていければ、町全体での共通した取組も進めることができると考える。
 - ・現在五戸小と倉石小に支援センターが設置され、小学校での支援が行われているが、当該学区の中学校への支援も検討できれば良いと思う。特に、図書室の図書整理は教職員だけでは難しい現状にあると思う。また、五戸・倉石地区に支援センターがあるので、川内地区にも設置できれば町全体で支援活動が行われることにつながると思う。
- ◆「14放課後子ども教室推進事業」について
 - ・可能であれば、一部の指導者は各地域の子ども教室を巡回して体験活動(ものづくり)などを行うことがあっても良いのではないかと。また、各教室の自立を目指すことが、逆にスタッフを確保するという人材確保のハードルを高くしているような気がする。

〈五戸町総合振興計画〉

施策4-2 生涯学習

- 生涯にわたる学習意欲に応えるために施設の充実を図り、各種研修・講習・学習会を積極的に開催します。
- 生涯学習活動を通じて、新たな知識の習得や人との出会いの場となるよう、住民の学習ニーズへの柔軟な対応や気軽に楽しめる環境づくりに努めます。

【4-2-1 社会教育関連施設の充実】

- 15 移動図書館事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 17

【4-2-2 生涯学習プログラムの整備と提供】

- 16 町民大学講座事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 18
- 17 公民館講座事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 18
- 18 公民館情報紙発行事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P 19
- 19 文化賞・スポーツ賞等事業・・・・・・・・・・・・ P 19
- 20 町民文化講演会事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P 20
- 21 町文化協会支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P 20

【4-2-3 指導者の育成と団体等の活動支援】

※各種事業で働きかけ実施

【4-2-4 若い世代が参加しやすい社会教育の実施】

- 22 成人式事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 21

【4-2-5 学習成果の活用】

- 23 ボランティア活動支援事業・・・・・・・・・・・・ P 22

- 施策4-2総括的評価・点検・評価委員の意見・・・・・・・・ P 23

4-2-1 社会教育関連施設の充実

1.5 移動図書館事業

点検	概要	図書館から遠隔地のため、利用しにくい地域の人たちのために、自動車に図書を積み込んで各地区と小学校を巡回して図書の貸し出しをする。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・地域巡回貸出冊数 1,000冊 ・学校巡回貸出冊数 3,600冊 	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・月1回5箇所での地域巡回及び小学校3校での巡回を実施した。 ・地域巡回貸出冊数 731冊 ・学校巡回貸出冊数 5,686冊
評価	成果	<p>移動図書館により、遠隔地域への図書貸出サービスが展開できた。また、地域を定期的に巡回することで、読書の推進が図られ、利用者の希望に応じた貸出をすることができた。</p> <p>なお、学校巡回について、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、感染症感染拡大以前のように、生徒自ら自動車の中にある図書を選んでもらうのではなく、一定の冊数の図書を小学校に貸し出すこととした。</p> <p>実績について、青森県内の感染症拡大時期（9月・2月・3月）に地域巡回を中止したことにより、貸出冊数は計画よりも下回ったが、学校巡回が一定の冊数の図書を小学校に貸し出したことで計画より大きく上回った。</p>	
	課題等	<p>全国的な新型コロナウイルス感染症感染拡大がやや収束傾向にあるが、基本的な感染症対策等を継続し、より利用しやすくするための巡回場所や日時等の見直し、周知等を行う必要がある。</p> <p>また、学校巡回では、児童数の減少傾向にある中で、より多くの子どもたちに利用してもらうよう、学校と連携した取り組みを検討する必要がある。</p>	

4-2-2 生涯学習プログラムの整備と提供

1.6 町民大学講座事業

点検	概要	生涯学習の一環として町民へ学習機会を提供することを目的に、年間を通じて各分野の講師を招いて講演を行う。また、施設見学などの移動講座も行う。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・開催講座数 10講座 ・開催回数 11回 ・受講者数 延べ330人 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催講座数 0講座 ・開催回数 0回 ・受講者数 延べ0人 新型コロナウイルス感染症の状況をふまえ中止
評価	成果	例年どおり講座を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響をふまえ中止した。	
	課題等	受講者が固定化している傾向にあり、新規の受講者が少ない。毎年楽しみにして下さる受講者に加え、本事業を知らない町民等に広く周知が必要。また、若い世代にも学習機会を広めるため、回によって開催内容や開催日時を柔軟に設定する等の検討が必要。	

1.7 公民館講座事業

点検	概要	町民が生涯を通して生きがいのある充実した生活を送ることができるよう、公民館において町民一人ひとりの学習ニーズに対応する多種多様な講座で、主に受講者が作成などを行う内容で学びの場を提供する。講座は、年間を通して行う普通講座、2～3か月の期間で行う短期講座、川内・浅田・倉石の3地区の施設に出向いて行う移動講座がある。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・参加延べ人数 普通講座 1,952人 短期講座 210人 移動講座 270人 	<ul style="list-style-type: none"> ・普通講座（英会話、パッチワーク、ハッピーダンス、習字等6講座） 475人 ・短期講座 0人 ・移動講座（3B体操、エコクラフト3会場で講座） 43人 実績
評価	成果	公民館講座は、幅広い年代の町民が受講しており、普通・短期・移動の3種類の多様な講座を開講することや内容の充実を図りながら、進めていくことによって利用者が楽しく住民と交流する場を提供してきましたが、令和3年度は英会話やパッチワークなどの普通講座を6種類開講。移動講座を3B体操とエコクラフトの2種類開講する予定で受講者を募集したが、新型コロナウイルス感染症防止対策のため公共施設の貸出が原則中止となったことに伴い、倉石支所でのエコクラフトと川内支所及び倉石支所での3B体操が中止となった。	
	課題等	普通講座の新規受講者の加入を促進するため、町民の学習ニーズを調査し新たな講座の開講、特に日中の講座を希望されている方もあり、講座を楽しく参加できるような企画を検討する必要がある。	

18 公民館情報紙発行业			
点検	概要	公民館事業への理解と関心を深めるために、公民館事業の情報紙「おんこ」を作成し、自治会を通して毎戸配付や回覧をすることで、公民館の利用者数の増加を目指す。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 「おんこ」の発行 年間利用者数 35,500人 年間利用件数 2,000件 	実績 <ul style="list-style-type: none"> 公民館講座の開催についての情報などを発信するため、「おんこ」を発行した。 年間2回の「おんこ」を発行 年間利用者数 12,913人 年間利用件数 1,276件
評価	成果	公民館情報紙「おんこ」を発行することで、公民館事業等を住民へ効果的にお知らせすることができ、また公民館利用者の利便性を高めることができた。利用者数に関して、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策から、貸し出しを原則中止にしていた期間があったことから、令和2年度と比べると増加したものの、感染拡大前に比べると減少している。	
	課題等	公民館情報紙「おんこ」と共に、町のホームページでの情報提供も続けていくが、現状では、紙面以外での情報入手が困難な状況にある方のためには依然として情報紙としての役割も大きい。今後とも見やすい、解りやすい公民館情報紙をめざし、情報提供していく必要がある。	

19 文化賞・スポーツ賞事業			
点検	概要	町の芸術文化の分野において、優れた創作活動を行っている個人または団体に対し「文化功労賞、文化賞、文化奨励賞」を、また町の体育・スポーツの振興発展への功績及びスポーツ大会において優秀な成績を収めた個人または団体に対し「スポーツ功労賞、スポーツ賞、スポーツ奨励賞」を授与する。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 文化賞 15人 文化奨励賞 30人 スポーツ賞 15人 スポーツ奨励賞 40人 	実績 <ul style="list-style-type: none"> 文化賞 9人 文化奨励賞 18人 スポーツ賞 10人 スポーツ奨励賞 30人
評価	成果	令和4年度については教育大会が無事に開かれ、様々な分野で活躍した方々を讃えることができ、その内容が町の広報紙に掲載されることで、町民に広く活躍を知らせることができた。	
	課題等	受賞者が会場入りする際に、どこから入ればいいのか迷っていたため、道中に案内人を配備すること。図書カードの落とし物が一件あったが誰が落としたのか定かではなかったため、図書カードにも受賞者の氏名を入れることが解決策。	

20 町民文化講演会事業			
点検	概要	町立公民館で講演会や演奏会などを実施することで、町民が芸術文化の関心を高めるとともに豊かな感性を育む機会を提供する。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和のうたコンサート「北海道歌旅座」 ・スプリングコンサート ターンバック他 入場者総数 1,300人	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため町民文化講演会を行いませんでした。 ・秋のミニコンサート ・スプリングコンサート ・昭和の歌ミニコンサート
評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・町民が芸術文化に関心を持ち心豊かな感性を育てるため、コンサートを企画してきたが、令和3年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため企画できなかった。 	
	課題等	町民からは、コンサートや著名人の講演の要望等があるが、限られた予算内ですできるだけ多くの町民が楽しめるもの等の実施を求められ難しい状況である。機会をとらえアンケートなどによる要望を把握し、検討する必要がある。	

21 町文化協会支援事業			
点検	概要	町文化協会の事務局を町立公民館で担当、協会運営と文化団体の事業の推進を図るとともに、町の芸術文化団体相互の交流などの活動を支援するために、町文化協会へ町補助金を交付する。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会加入団体数 50団体 ・産業と文化祭り参加数 20団体・個人 ・芸能発表会参加数 20団体・個人 ・町補助金の交付 	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・文化協会加入団体数 52団体 ・文化祭り参加数 0団体 ・芸能発表会参加数 0団体 ・町補助金を交付
評価	成果	補助金の交付を受け、視察研修の実施や発表会への参加など、町の文化団体組織の活性化と芸術文化が図られていたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため文化まつり、芸能発表会などのイベントは行いませんでした。例年行っている奥州街道、根岸三十三観音の草刈り奉仕作業については、コロナウイルス感染拡大のことも考慮し有志により少人数で奉仕作業を行った。	
	課題等	支援は、五戸町文化協会を対象とした事業であるが、文化協会に加入していないで文化・芸術活動をしている町民もいることから、町の芸術文化の振興のためには文化協会以外の活動に対するアプローチも検討する必要がある。	

4-2-4 若い世代が参加しやすい社会教育の実施

2.2 成人式事業

点検	概要	二十歳になる新成人の町民を対象に式典を行う。 式典の企画運営は、新成人たちが自ら実行委員会を組織して検討・実施する。		
	計画	・新成人の参加率（参加者／対象者）45%	実績	令和2年度成人式（令和3年12月26日開催）は参加率36.9%、令和3年度成人式（令和4年1月9日）は参加率45.5%であった。
評価	成果	町の行事を新成人による運営で行うことで、新成人が地域との関わりを持つきっかけとなった。		
	課題等	例年、実行委員会は新成人により構成されることから、より良い事業とするために過去の成人式対象者や実行委員経験者に参加してもらう等、広く人材を募集し開催経験を継承していく必要がある。 また、新成人世代だけでなく、地域を巻き込んだ企画を行うことで、若者と地域の接点が生まれ今後の地域の活性化にもつながると考えられる。		

4-2-5 学習成果の活用

2.3 ボランティア活動支援事業

点検	概要	<p>町内の各分野における特技を持った人材を生かし、町民の社会参加の場を提供するとともに、地域ぐるみの教育を目指した「学校等支援ボランティアバンク」にボランティアで活動する人をリストに登録し、学校等からの求めに応じて人材を紹介する。 登録の更新は、2年ごとに行う。</p>		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・登録人数 50人 ・登録件数 25件 ・活動件数 1件 	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・登録人数 54人 ・登録件数 28件 ・活動件数 1件
評価	成果	<p>今年度は1件、奥州つつみ隊において活動実績があり、新型コロナウイルス感染症の影響により発表機会は無かったものの、五戸小学校太鼓部の活動として11月から翌年3月まで活動を行った。</p>		
	課題等	<p>本事業を活用して継続利用されている団体は、現在奥州つつみ隊のみ。利用者からは、活動に必要な楽器や用具を運搬してほしいという意見があった。 利用者を増やすため、周知をさらに実施する必要がある。また、利用者側の状況やニーズを把握し、利用しやすい制度または現状に合った内容に改善する必要がある。</p>		

施策4-2 総括的評価

生涯にわたる学習意欲に応えるために施設の充実を図り、各種研修・講習・学習会を積極的に開催しているか、及び生涯学習活動を通じて、新たな知識の習得や人との出会いの場となるよう、住民の学習ニーズへの柔軟な対応や気軽に楽しめる環境づくりに努めているか、関連する9事業をピックアップし点検した結果、コロナ禍により実施できなかった事業を除き概ね成果を得られているものと評価される。

今後も同事業を引き続き実施していくこととなるが、各事業とも課題等があるため、改善に努めながら実施していく必要がある。

点検・評価助言委員の意見

- ◆「15 移動図書館事業」について
 - ・各学校の図書室の運営との連携を図るために町担当者と各学校の担当者の会議の設置や町校長会の活用などが必要だと思う。
 - ・各学校の図書費が限られている中、図書室運営を充実していくために、各学校と連携しながら町立図書館の豊富な蔵書を活用していくことが期待される。
- ◆「17 公民館講座事業・18 公民館情報誌発行事業」について
 - ・コロナ禍でも事業が行われたのは担当者の努力のたまもの。今後もコロナの感染状況を見ながら、利用者のニーズを把握し工夫改善を進めてほしいと考えます。
- ◆「20 町民文化講演会事業」について
 - ・自衛隊音楽隊や県警音楽隊の演奏会を検討してみてもどうか。
- ◆「22 成人式事業」について
 - ・課題等の欄にあげてある具体的改善策の実施に期待する。
 - ・新成人による実行委員会で企画・運営がなされ良いことだと思う。成人年齢が変更されたが、成人式は以前通り20歳で良いと思う。
- ◆「23 ボランティア活動支援事業」
 - ・学校に配置されている「学校支援地域本部事業」との連携を具体的に進めていくことに期待する。

〈五戸町総合振興計画〉

施策4-3 スポーツ・レクリエーション

- 住民がそれぞれの年齢、趣味、体力に応じたスポーツ・レクリエーション活動を行うことができるよう、指導者の育成や施設・設備の改修等、安全に利用できる環境づくりを進めます。
- スポーツ・レクリエーション活動を通じて、住民同士の交流機会となるよう、気軽に参加できる機会づくりに努めます。
- 住民が自身の健康づくりの一環として行うことができる年齢層に応じた生涯スポーツの普及促進に努めます。

【4-3-1 多様なスポーツ活動の普及促進】

24	スポーツ推進委員事業	P25
25	生涯スポーツ振興事業等委託事業	P26
26	スポーツクラブ育成事業	P27
27	スポーツ大会出場祝金事業	P27
28	町民運動会事業	P28

【4-3-2 指導者の育成・確保】

※各種事業所に働きかけ実施

【4-3-3 スポーツを楽しむ環境の整備】

29	スポーツ施設の管理事業	P29
----	-------------	-----

施策4-3	総括的評価・点検・評価委員の意見	P30
-------	------------------	-----

4-3-1 多様なスポーツ活動の普及促進

24 スポーツ推進委員事業

点検	概要	町のスポーツの推進のため、熱意と能力のある住民をスポーツ推進委員として町教育委員会が委嘱し、社会体育事業の企画・運営をしてもらう。また、その他の団体のスポーツ行事・事業に協力及び指導助言をしてもらう。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・町民運動会・登山・歩こう会の企画運営への参画 ・各種スポーツ大会への協力 ・委員の行事等への延参加者数50人 	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員は、町民登山及び歩こう会の企画運営に参画した。 ・委員の行事等への延参加者数53人
評価	成果	スポーツ推進委員は、専門的な知識と行動力で町の事業に参画するなどスポーツの振興に寄与した。スポーツ推進員なしでは、町民運動会、町民登山及び歩こう会の円滑な計画立案・実施は難しいといえる。特に女性委員は、登山や運動会での女性参加者に対する心身のケアや幅広い視点で活動ができる貴重な人材であり、存在意義は大きい。	
	課題等	スポーツ推進委員対象の研修会や会議に参加すると、五戸町の参加者が活発に参加している市町村に比べ非常に少ない。町内の活動だけでなく、郡や県での研修等に積極的に参加していただけるよう働きかけていきたい。	

2 5 生涯スポーツ振興事業等委託事業

概要	<p>「町民一人1スポーツ」を奨励し、心身ともに健康で豊かな生活を送るため、生涯スポーツを推進することを目的に、誰もが気軽に参加できる各種スポーツ大会や運動教室の実施についての企画、運営を（公財）五戸町スポーツ振興公社に委託している。</p>	
点検	<p>・各種スポーツ大会及び教室等の参加者数 3,500人 ・県民スポレク祭派遣 1回 ・開催スポーツ大会数 5回 ・開催教室数 3回 ・各種講習会・支援事業 5回 ・登山参加者 30人 ・歩こう会参加者 50人</p> <p>県民駅伝競走大会五戸町実行委員会事業 ・実行委員会の実施内容 選手選考、練習スケジュールの作成と実施、試走会、大会当日の選手サポート ・練習会等回数 30回 ・練習会参加者数 30人</p> <p>スポーツ少年団本部事業 ・補助金の交付 ・登録指導者予定数 30人 ・登録団員数 200人 (合計 230人)</p>	<p>・各種スポーツ大会及び教室等の参加者数 3,296人 ・県民スポレク祭派遣 1回 ・開催スポーツ大会数 5回 ・開催教室数 3回 ・各種講習会・支援事業 6回 ・登山参加者（八甲田山）30人 ・歩こう会 中止</p> <p>県民駅伝競走大会五戸町実行委員会事業 ・実行委員会の実施内容 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から本大会は中止となった。冬季練習会のみ実施した。 ・冬季練習会 6回 ・冬季練習会参加者数 延べ28人</p> <p>スポーツ少年団本部事業 ・スポーツ少年団本部へ補助金を交付した。 ・登録指導者数 27人 ・登録団員数 205人 (合計 232人)</p>
評価	<p>生涯スポーツ振興事業等の委託では、行政では手が回らない部分を委託することで、多彩な大会等が実施され、多数の町民がスポーツに親しむことができた。年代・目的別トレーニング教室や健康体操教室、スポーツ指導者育成事業としてスポーツ安全と救命処置の講習会を開催し好評であった。</p> <p>高齢者のレクリエーションや各種教室の参加者はほとんどが女性であり成果も上がっているが、男性参加者が非常に少ない。男性や参加したことのない女性等より多くの町民に運動する機会を提供する必要がある。</p>	
課題等	<p>高齢者のレクリエーションや各種教室の参加者はほとんどが女性であり成果も上がっているが、男性参加者が非常に少ない。男性や参加したことのない女性等より多くの町民に運動する機会を提供する必要がある。</p>	

26 スポーツクラブ育成事業

点検	概要	<p>幼児から一般まで幅広い年齢層で、多様な競技を選択できるように地域に根ざした、総合型地域スポーツクラブの育成と、スポーツを通じた町の活性化を目指し、スポーツクラブを運営している（公財）五戸町スポーツ振興公社へ、スポーツクラブ強化事業、指導者育成事業、スポーツ教室開催事業分として補助金を交付する。</p> <p>・スポーツクラブのスクールコースは、サッカー（U-8、レディース）、野球、バスケットボール、ソフトテニス、バレーボール、こども運動遊び教室の6部門となっている。</p>	
	計画	<p>・事業参加者 1,500人 ・補助金の交付 ・クラブ大会出場数 30回 ・指導者育成事業 2回 ・スポーツ教室・イベント事業 10回</p>	実績
評価	成果	<p>スポーツクラブ育成事業は、運営組織の（公財）五戸町スポーツ振興公社に町が補助金を交付することで、スポーツ振興公社がクラブ強化事業、指導者育成事業、スポーツ教室開催及びイベント事業、広報活動の4事業を展開した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした事業もあったため、計画達成できない事項もあった。スポーツ教室はサッカー、野球、陸上競技、ソフトテニスの教室を開催し好評であった。特に女子サッカー競技については、県内外の多くの大会で優秀な成績を収めることができた。</p>	
	課題等	<p>スポーツクラブは、運営体制の強化、クラブ員・指導者の増員、事業の充実と拡大を図っていくことが必要である。</p> <p>また、少子化による競技者数減少や競技環境の多様化により、スポーツ少年団や中学校部活動との関わりについて連携調整が必要となってくることが予想される。</p>	

27 スポーツ大会出場祝金事業

点検	概要	<p>小・中学生のスポーツ競技力の向上と支援を目的に、予選を経て東北大会及び全国大会に出場した小・中学生の保護者及び監督・コーチに対し、出場に際する負担を軽減するため、東北大会出場者へは10,000円以内、全国大会出場者へは20,000円以内（合わせた限度額は20,000円）の祝金を支給する。</p>	
	計画	<p>・東北大会 7人 ・全国大会 4人</p>	実績
評価	成果	<p>出場祝金を支給することで、予選を勝ち抜いて上位の大会へ出場した小・中学生の保護者及び監督・コーチの負担を軽減することができた。</p>	
	課題等	<p>学校やスポーツ少年団、スポーツクラブ等へ、祝金制度についての周知や声かけを行い、対象者がいたら早めに申請してもらったり、申請漏れがないか確認したりする必要がある。</p>	

28 町民運動会事業

点検	概要	町民の健康増進や親睦を図るために、全町内で自治会または地区ごとにチームを作り、子どもから老人までが参加できる様々な競技で得点を競う。唯一の全町をあげたスポーツイベントとなっている。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 参加チーム数 14チーム 延参加選手数 1,300人 	<ul style="list-style-type: none"> 参加チーム数 0チーム 延参加選手数 0人 新型コロナウイルス感染症の状況をふまえて中止
評価	成果	町民運動会は、町内の全地区が参加し、スポーツを通じて地域の結団と親睦を図るとともに、三沢基地所属のアメリカ海軍チームを特別招待することで、国際交流の推進を図っているが、令和3年度は新型コロナウイルスの状況をふまえて中止となった。	
	課題等	近年の少子高齢化に伴い選手の確保が難しくなっているチーム（自治会）が多くなっている。開催時間、競技種目の内容（魅力）、競技数等少しでも町民が参加しやすいような工夫が必要である。 また、町職員を多数動員しており、職員の負担が大きい。ボランティアスタッフを募り更なる町民参加型の事業とするために、募集方法等について改善を検討すべきである。	

4-3-3 スポーツを楽しむ環境の整備

29 スポーツ施設の管理事業

点検	概要	<p>ひばり野公園（陸上競技場、野球場、サッカー場、テニスコート、プール）、屋内トレーニングセンター、スポーツ交流センター及び倉石スポーツセンターの施設を町民のスポーツ活動の場として提供しており、町民が利用しやすい施設とするために、施設管理を指定管理者に委託している。また、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の不良箇所の修繕を行う。</p>	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ひばり野公園支障木伐採業務委託 ・五戸ドーム暖房ボイラー付属機器交換工事 ・交流センター手洗い場自動水洗化工事 ・交流センター空調機設置工事 <p>・施設利用者数 ひばり野公園 43,000人 五戸ドーム 20,000人 スポーツ交流センター 4,000人 倉石スポーツセンター 14,000人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひばり野公園支障木伐採業務委託 ・五戸ドーム暖房ボイラー付属機器交換工事 ・交流センター手洗い場自動水洗化工事 ・交流センター空調機設置工事 ・交流センター空気清浄機購入等 <p>実績 ・施設利用者数 ひばり野公園 35,087人 五戸ドーム 22,545人 スポーツ交流センター 7,501人 倉石スポーツセンター 11,387人</p>
評価	成果	<p>ひばり野公園、屋内トレーニングセンター、スポーツ交流センター及び倉石スポーツセンターは、（公財）五戸町スポーツ振興公社と指定管理委託を締結することで、経費の節減ときめ細かな施設の管理及び利用者の利便性の向上を図ることができた。（指定管理期間は令和元年度から令和3年度まで）</p> <p>また、予定した各種工事は予定どおり実施、新型コロナウイルス対策の追加工事も順次行うことで、施設の良好な管理ができた。</p> <p>施設利用者数については、五戸ドーム人工芝の導入及び新型コロナウイルス感染症対策が令和2年度よりも緩和されたことから、ドームや交流センターで増加したが、総数としては前年度を3千人弱下回った。</p>	
	課題等	<p>ひばり野公園は開園から30年以上が経過し、各施設や設備の老朽化が進み大規模改修の必要な箇所がある。令和8年度には青森国スポサッカー競技の一部がひばり野公園で実施される予定であることから、財政担当課や関係機関と協議し計画的な予算措置が必要である。</p> <p>その他施設設備の突発的な故障にも対処が必要となっている。</p>	

施策4-3 総括的評価

住民がそれぞれの年齢、趣味、体力に応じたスポーツ・レクリエーション活動を行うことができるよう、指導者の育成や施設・設備の改修等、安全に利用できる環境づくりを進めているか、スポーツ・レクリエーション活動を通じて、住民同士の交流機会となるよう、気軽に参加できる機会づくりに努めているか、及び住民が自身の健康づくりの一環として行うことができる年齢層に応じた生涯スポーツの普及促進に努めているか、関連する6事業をピックアップし点検した結果、コロナ禍により実施できなかった事業を除き概ね成果を得られているものと評価される。

今後も同事業を引き続き実施していくこととなるが、各事業とも課題等があるため、改善に努めながら実施していく必要がある。

点検・評価助言委員の意見

◆「24 スポーツ推進委員事業」について

・県の研修会に参加者が少ないとあるが、県などの研修会に参加した人を講師にして町内での研修会を実施するなど、研修会の参加者を増やす方策と対応策を具体的に考えていく必要があると思う。

◆「25 生涯スポーツ振興事業等委託事業」について

・高齢化が進む中において、健康維持のうえでとても重要な施策と思う。

◆「26 スポーツクラブ育成事業」について

・保護者のニーズが多様化しているが、今後も成績重視による「やりすぎ」による子供たちの発育・体調管理に悪影響を及ぼさないような生涯学習としての視点もった指導者育成・指導員等へ意識改革に期待する。

・地域に根差した総合型地域スポーツクラブの育成と、スポーツを通じた町の活性化を目指したスポーツクラブの運営に必要不可欠であると考え。これから中学校部活動の地域移行が進むと思われるが、子どもたちのスポーツ環境確保の面からも、スポーツクラブの存在意義が重要視されてくるので、中学校との連携をより強化していく必要があると思う。

◆「28 町民運動会事業」について

・課題に対し、具体的内容・方法について、例示をあげることができれば次の実施に向けて改善につながっていくと思う。

・少子高齢化に伴い選手の確保が難しくなっているため、競技種目や競技数等の検討が必要と思う。

◆「29 スポーツ施設の管理事業」について

・平日でも多くの町民が軽いランニングをするなど、運動を楽しむ姿が見られる。利用者の声を把握できる仕組みがあれば、公園の整備についてより利用しやすい環境ができると思う。また、国体の大会会場にもなる際の施設改修にも役立てることができると思う。

・指定管理により、きめ細かな施設の管理と利便性の向上につながっていて、平日でも多くの町民が運動を楽しむ姿が見られている。施設や設備の老朽化が進んでいるので、計画的な維持・更新の検討が必要と思われる。

〈五戸町総合振興計画〉

施策4-4 地域文化

- 本町の自然、歴史、文化等の郷土に関する文化財の保護に努めるとともに、先人が残した郷土の貴重な文化財を地域資源として有効活用できるよう保護体制の充実を図ります。
- 学校教育・生涯学習活動を通じて、地域の文化や歴史に対する住民の関心を高める取り組みを推進し、町内の地域文化と郷土芸能を後世に残す取り組みを支援します。

【4-4-1 保存団体、指導者の育成】

30 文化まつり事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 32

【4-4-2 文化財の保存活動の推進】

31 町文化財管理事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 33

32 伝統芸能継承活動事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 33

【4-4-3 文化財の活用】

33 県重宝「旧圓子家住宅」管理事業・・・・・・・・・・・・ P 34

34 ごのへ郷土館管理事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 34

施策4-4 総括的評価・点検・評価委員の意見・・・・・・・・ P 35

4-4-1 保存団体、指導者の育成

30 文化まつり事業

点検	概要	文化活動を行っている団体、個人が、公民館を会場に発表を行う。	
	計画	・参加団体数 50団体	実績 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年度に引き続き文化まつりは中止となった。 出展、出店団体数 0団体 芸能発表団体数 0団体 計参加団体数 0団体
評価	成果	文化まつりは、町民の日ごろの活動成果を発表したり親しんだりする貴重な機会だが、実行委員会において感染防止対策とうについて検討した結果、新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年度に引き続き中止となった。	
	課題等	開催にあたっては、来場客が観覧しやすいことを考えながら出展側の希望と者のニーズを踏まえたうえで訪問客が利用しやすいように計画するかが問われている。	

4-4-2 文化財の保存活動の推進

3.1 町文化財管理事業

点検	概要	町所有の文化財の保存管理、調査を行うとともに、臨時職員2名を任用し、未整理文化財の整理作業を行い町内の歴史の把握を行う。 開発等に伴う遺跡調査を実施し、遺跡の適切な保存に努める。 文化財関係資料の貸出等に対応し、町内文化財の周知に努める。	
	計画	・文化財整理作業日数 10日 ・町有文化財環境整備回数 2回	実績 ・文化財整理作業日数 15日 ・町有文化財環境整備回数 2回 (支柱設置、看板修繕)
評価	成果	町文化財の整理等により、町民及び県内外の関係者への五戸町の歴史理解に寄与した。 五戸町関係の文化財寄贈に対応し、受入れ及び整理作業を実施した。 青森県指定天然記念物「わむら(上村)のカシワ」の支柱設置を行い、適切な管理に努めた。 埋蔵文化財、写真等資料の貸出により五戸町管内の文化財の魅力を発信することができた。また、奥州街道案内看板(浅水)の修繕や大学沢の追分石の町文化財指定をとおして、町文化財の周知を図ることができた。 開発等に伴う遺跡調査等は、工事立会1件を実施した。	
	課題等	既存の未整理の文化財に加えて、近年は文化財の寄贈申し入れの事例が増えているため、今後も継続的に事業を実施する必要がある。 天然記念物(樹木)については、定期的に枝折れ、倒木等の危険がないか確認する必要がある。また、各種新規指定文化財候補の調査等を積極的に行い、文化財の保存活用に努めることも必要である。	

3.2 伝統芸能継承活動事業

点検	概要	小学生に対し、伝統芸能に触れる機会をつくとともに、継承活動を進めていくために学校で行う伝承活動について、指導者への謝金や道具の修繕などの支援をする。	
	計画	・指導回数 40回 ・発表回数 3回	実績 五戸小学校の児童が和太鼓(五戸太鼓)を通常は月2回程度、長期休暇等は月5回程度の活動を行っている。が新型コロナウイルス感染拡大の影響で4月～10月は休止していた。 ・指導回数 16回 ・発表回数 0回
評価	成果	伝統芸能継承活動は、小学生の伝統芸能への理解に寄与した。 また、地域の子どもに伝統芸能の指導が行われることで伝統芸能団体の普及発展に寄与した。	
	課題等	新型コロナウイルス感染拡大の影響だけでなく、少子化や習い事の増加等によって伝統芸能を実践する児童が減少している。五戸小学校の協力を得ながら、参加者数の増加に努める取り組みが必要である。	

4-4-3 文化財の活用

3.3 県重宝「旧圓子家住宅」管理事業

点検	概要	青森県重宝に指定されている「旧圓子家住宅」の管理及び見学者への公開を行うことにより、文化財保護への理解を深め、五戸町の歴史を後世に伝えていく。 会計年度任用職員1名を雇用して管理・清掃を行う。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 管理実施日数 70日 見学者数 50人 	実績 <ul style="list-style-type: none"> 管理実施日数 70日 見学者数 16人
評価	成果	見学者への公開によって町民の郷土史理解の深化に寄与した。パンフレットを活用し、町内外へ当該文化財を周知することができた。消防設備点検を実施し、法令に基づき保存環境の適正化を推進した。建物診断を行い、建物全体の修繕場所を把握することができた。	
	課題等	建物診断の結果から、旧圓子家住宅は今後修繕等が必要な箇所が多々あるため、計画的に修繕等を行い、より一層適正な管理を行う必要がある。入館者数の増加のため、関係機関と協力して周知を図る必要がある。	

3.4 ごのへ郷土館管理事業

点検	概要	旧豊間内小校舎を利活用した「ごのへ郷土館」を指定管理者と協力して施設の維持管理や活用に努める。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 式典 1回 利用者延べ人数 10,000人 特別展示及び体験イベント 2回 	実績 <ul style="list-style-type: none"> 式典 1回 利用者延べ人数 8,287人 特別展示及び体験イベント 2回
評価	成果	指定管理者が中心となり、6月26日に開館3周年式典を実施した。企画展示は12月～3月に教育課の企画で「青森県無形民俗文化財 南部駒踊 ～南部駒踊石沢保存会の活動～」の展示を行った。また、青森県立郷土館巡回展「ふるさとの宝物 ー県立郷土館コレクションー」を誘致し、見学者の増加に努めた。指定管理者事業である伝統工芸体験イベントは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、9月及び1月24日から3月31日まで休館としたが、指定管理者の自主事業（館長講座、小正月等）の実施もあり、利用者はコロナ前比約30%減（前年比約10%増）に留まった。	
	課題等	次年度は開館5年目となり、新型コロナウイルス感染拡大の終息も見えないことから、コロナ前の見学者数まで回復しないことが予想される。指定管理者と協力して展示替えや特別展示を実施して、利用者数を維持、増加させる取り組みが必要である。管理については、指定管理者と情報を共有し、適切な管理、施設の有効利用に努める必要がある。	

施策4-4 総括的評価

本町の自然、歴史、文化等の郷土に関する文化財の保護に努めるとともに、先人が残した郷土の貴重な文化財を地域資源として有効活用できるよう保護体制の充実を図っているか、及び学校教育・生涯学習活動を通じて、地域の文化や歴史に対する住民の関心を高める取り組みを推進し、町内の地域文化と郷土芸能を後世に残す取り組みを支援しているかについて、関連する5事業をピックアップし点検した結果、コロナ禍により実施できなかった事業を除き概ね成果を得られているものと評価される。

今後も同事業を引き続き実施していくこととなるが、各事業とも課題等があるため、改善に努めながら実施していく必要がある。

点検・評価助言委員の意見

- ◆ 「3.1 町文化財管理事業」について
 - ・文化財の維持管理だけでなく、町民の文化的意識の向上と郷土に対する誇りの涵養にもつながる新規施策に期待したいと思う。
- ◆ 「3.2 伝統芸能継承活動事業」について
 - ・太鼓部は今後五戸小学校から地域や町で取り組んでいく必要があると思う。練習会場は五戸小にお願いするとしても実際の活動については、教員から分離していく時代だと思う。
- ◆ 「3.3 県重宝「旧圓子家住宅」管理事業」について
 - ・引き続きこれからも見学できる管理を継続していく必要があると思う。
- ◆ 「3.4 ごのへ郷土館管理事業」について
 - ・町の広報誌に、毎回、郷土館のコーナーを設けるなどして情報提供の強化、また、直通バスを設置したりして、町民が利用しやすい環境づくりのサポートに期待したいと思う。
 - ・八戸市マリエントの「地球探検クラブ」や児童科学館の「発明クラブ」のように、小中学生対象にする講座を盛り込んでいくことも提案しながら、委員会でも次世代の子供たち対象に五戸町に興味関心を持ち、郷土に誇りを持った大人に成長できる機会をつくるなどの取組に期待したいと思う。
 - ・旧南部鉄道DC351ディーゼル機関車が搬入され話題となったが、依然コロナの影響は大きく見学者の増加は見通せない状況にある。展示替えや特別展示など、利用者数の維持・増加のための取り組みが必要と思う。

参 考 資 料

◇児童生徒数の推移

学校名	R元年度 児童生徒数 (人)	R 2年度 児童生徒数 (人)	R 3年度 児童生徒数 (人)	R 4年度 児童生徒数 (人)	R 4年度 学級数 (学級)
五戸小学校	381(12)	381(16)	376(15)	361(17)	17(5)
切谷内小学校	56(2)	54(3)	57(5)	54(5)	6(2)
上市川小学校	110(2)	102(2)	95(1)	81(1)	7(1)
倉石小学校	91(1)	95(1)	83(2)	81(2)	8(2)
小学校計	638(17)	632(24)	611(23)	577(25)	38(10)
五戸中学校	207(7)	208(3)	192(3)	190(7)	8(2)
川内中学校	78(3)	76(3)	69(2)	84(2)	5(2)
倉石中学校	61(3)	47(0)	51(2)	44(2)	5(2)
中学校計	346(13)	331(6)	312(7)	318(11)	18(6)
合 計	984(30)	963(30)	923(30)	895(36)	56(16)

※ () は、特別支援の数 (内数)

◇令和3年度 教育委員会開催状況

R 3. 4. 16 第1回 定例会開催	R 3. 10. 28 第7回 定例会開催
R 3. 5. 28 第2回 定例会開催	R 3. 11. 24 第8回 定例会開催
R 3. 6. 25 第3回 定例会開催	R 3. 12. 21 第9回 定例会開催
R 3. 7. 27 第4回 定例会開催	R 4. 1. 28 第10回 定例会開催
R 3. 8. 27 第5回 定例会開催	R 4. 2. 22 第11回 定例会開催
R 3. 9. 27 第6回 定例会開催	R 4. 3. 25 第12回 定例会開催